

大田区歴史的風致維持向上計画策定協議会 委員発言整理表 (第1回)

2025.5.21

資料2

No.	資料	発言内容	対応	対応部局
1	資料 1	池上まちづくり協議会は約10年間、大田区に多くの提案を行ってきたので、それらをまずは確認いただきたい。	区（鉄道・都市づくり課）へご提案頂いた内容（旧参道・新参道の無電柱化等）については、都市基盤整備部等と連携しながら補助金を活用した事業の実施を検討していく。	都市計画課 鉄道・都市づくり部 都市基盤整備部
2	資料 1	六郷用水は整備されているがレンガ囲いとなっており、和の雰囲気を取り入れた姿への変更を望む。 現在は多くが暗渠化されているが、地域との調整により、せせらぎを復活させる場所を検討できなか。その際大田図書館南側の整備事例は参考になる。	六郷用水を含む区内の散策路をはじめとして、社寺や大森貝塚など、区内の歴史文化資産を抽出・把握し、歴史的風致としての位置づけの可否を検討する。検討結果を踏まえ、歴史的風致又は区の歴史文化資源についての位置づけを整理し、該当項目として整備や維持管理等に関する方向性を計画で示していく予定である。	都市計画課
3	資料 1	大田区には池上本門寺以外にも芳心院墓所（万両塚）や大森貝塚など多くの歴史・文化資産があり、それらの位置づけを明確にしてほしい。		
4	資料 1	計画策定時には先行事例の成功・失敗点の共有機会を設けてほしい。	【成功（まちづくりへの効果）】 ・観光客（交流人口）の増加、建物・街並みの保全・活用、住民意識の向上、街並み景観の向上、回遊性の向上、住民活動の活発化、地域の活性化、外国人観光客の増加、行政内外におけるまちづくりの推進、地域の魅力の認識・発信、庁内連携の構築、事業推進、国の支援措置、歴史的建造物の滅失数の抑制、教育効果、他の認定都市とのノウハウ・ネットワーク 等 【失敗】 ・国に確認したところ、認定を受けてまちづくりに失敗した都市はない。 <理由>どのようなまちづくりを行うか、どのような規制や国からの補助を受けて事業を行うかは計画を作成する自治体の判断によるものため、自分たちの市区町村に不利になるようなまちづくりや計画はつくっていない。 令和6年9月時点で認定を受けている都市は97都市あるが、歴まち計画を1期（10年間）で終了させた都市は3都市しかない。 また、1期で終了した理由についても、歴まちにデメリットがあったわけではなく、歴まちによるまちづくり事業が完結したため、追加で事業（2期）に取り掛かる必要がなくなったためである。 残りの自治体は、歴まち計画にメリットを感じ、2期計画に着手しており、3期に着手しようとしている自治体もある。	都市計画課

5	資料 1	大田区の歴史・文化の中心である池上本門寺について、委員全員の理解を深めるため、委員の協力を仰ぎたい。	本計画を策定するにあたり、学芸員の知識をはじめ、委員の皆様と区内の歴史文化資源をどのように将来へ引き継いでいくのか積極的な議論を行っていきたい。	都市計画課
6	資料 1	池上本門寺一帯だけではなく、多摩川沿いや東海道沿いなど大田区全体に広げて総合的に捉え、時代による特徴的な産業遺産やまちなみ、地形などを評価・検討していく必要がある。	本計画を策定する第一段階として、池上本門寺一帯に限らず区内の歴史・文化資源を整理する。また、大田区の地形や歴史的背景などについても評価・検討を行い、協議会の場で議論をしていく。	都市計画課
7	資料 1	大田区には武士の居住跡や、久が原地区の昭和初期のお屋敷など、未発掘の歴史的建造物が多く残されている。近代以降の歴史も含め、区の時代的変遷を幅広く捉えることが重要である。		
8	資料 1	池上地区は歴史的な視点からの検討が重要である。池上本門寺は、鎌倉時代における武藏国の位置づけや各時代における政権との関係性など、より広い歴史的文脈での検討が必要である。	池上地区を含む歴史的風致と位置づけを行うエリアについては、大田区の歴史的背景等を分析したうえで、計画に位置づける予定である。	都市計画課
9	資料 4	洗足池公園についての言及がないのではないか。	第1回協議会時点においては、洗足池公園を含めて現在、区内の歴史文化資源を抽出中であった。本日の第2回協議会において、国のマニュアルに沿って検討進めた結果である「歴史的風致（仮）」をお示しする。	都市計画課
10	資料 4	一般的な江戸前の神輿と異なり、大田区の祭礼文化には特殊性がある。これらの特徴的な祭礼文化は歴史的風致を考える上で重要な観点となる。	国のマニュアルに沿った”歴史的風致”を検討するうえで、区の特徴・特色は非常に重要なポイントとなる。計画への位置づけは、協議会での議論を含め、区の独自性を示す形で整理していく。	都市計画課
11	資料 4	亀甲山古墳周辺のかつての松林景観を復元する事業を、歴まち計画の予算で実施できないか。また、多摩川との関連性も含めて、歴史的風致地区として連続的な景観を考えいくべきである。	国のマニュアルに基づき、具体的な事業についてを記載する章があり、今後、各所管部局との密な調整を実施していく。亀甲山古墳をはじめ具体的な取組がひとつでも多く記載できるように取り組んでいく。	都市計画課